

(14) 表2 『加越能文庫』金沢市立図書館蔵にある高山城関連史料一覧表

史料名	年代	高山の図書（七）番号	詳細
高山在番記 一	元禄五年	A	前田家編輯方手写 内容は元禄七年（一六九四）～同八年（一六九五）まで。安永六年（一七七七）不破明手写の写もあるが、編輯は森田良見であろう。自筆の見出しがある。①高山在番記一・二巻②高山在番記3・4・5巻
高山在番記 二 止	元禄六年 ～八年	A	元禄五、六年（一六九一、九三）初代勤番永井織部関係のもの 手写 元禄五年万六本巻（飛騨園田藩主金森頼へ所替えたので、加賀藩がその留守番をすることになった。同八年春廃城になるまでつづいた。本書は、その初期の公文書の綴り。
高山在番記 完	元禄五、六年	A	手写 内容年代は元禄五年（一六九二）～七年。附録文書には享保十二年（一七一七）のものもある。
高山在番之儀二付 御親翰御加筆等留（二）	元禄五年	A	前田家編輯方手写 内容は元禄七年（一六九四）野村五郎兵衛高山在番二付覚書。安永二年（一七七三）高山御代官所百姓一揆二付富山ヨリ御人数相向候一卷覚書。後者は、安永二年十一月十六日飛騨の農民が代官所へ強訴しようとしたので、幕府が富山はじめ近隣の大名へ鎮定の命を下した時の富山藩の動静
高山在番之儀二付 御親翰御加筆等留（二）	元禄五年 ～七年	A	
飛州高山城在番始終之覚	元禄七年	A	
高山在番等覚書 二種 附安永	元禄七年	A	
※表紙は「全」、扉には「二種」とある。	安永二年		
高山在番之覚	元禄七年	A	
飛州高山城御預りの覚書	元禄五年	A	
飛州高山在番雜記 単	元禄五年 ～八年	A	森田西岸（盛昌）編 前田家編輯方手写 明治年間 内容は元禄五年（一六九二）九月～同八年（一六九五）四月まで。初代勤番永井織部に従つて高山に赴き、翌元禄六年四月交替まで在留した森田盛昌の覚書の写で、金森家の来歴や高山の地里などが附けられている。
高山在番雜記 追加	嘉永三年	A	
高山在番雜記 追加	歴史	A	
飛州高山城 勤番方御定書 写等	元禄三年 安永三年	A	前田家編輯方手写 原題「元禄三年加賀宰相様飛州高山之城御預二付城勤番方御定書之写并高山侍中交名其外聞書等記 安永三年（一七七四）田辺正巳手写の写

※掲載されている情報（文章、写真など）は、著作権法上認められた例外を除き、高山市教育委員会に無断で複製・引用・転用・転載などの利用をすることはできません。